

(図画工作科)

楽しく造形活動に取り組み、自分の思いを表現しようとする子どもを育てる

大阪市立天下茶屋小学校 研修部

1. 研究主題設定の理由

本校では、『21世紀をたくましく生きる「天茶っ子」の育成』という教育目標を掲げ、「よく学ぶ子・思いやりのある子・強い元気な子」の育成に努めてきた。

昨年度より、子どもたちが、社会の変化に対応し、心豊かに主体的に生きていくために、また、豊かな自己実現を図るために、図画工作科を研究教科とし、「楽しく造形活動に取り組み、自分の思いを表現しようとする子どもを育てる」を研究の主題に置き、研究実践を進めてきた。実践を通して「やってみよう」「がんばろう」「やりとげた」という意欲・喜びを体得させ、自分の思いを表現する楽しさを味わわせたいと考えた。昨年度は、造形表現の基本的態度を養う絵画表現を中心に据え、絵画表現を通して自分を表現していく楽しさを味わわせることに視点をおくことにした。また、今年度は、工作表現を中心に据え、自らつくり出す喜びを味わい、自分の良さや可能性を見つけることに視点をおいた。

図画工作科の指導を工夫・充実することは、物事に主体的にかかわり、物事を敏感に受けとめる感受性を育て、色や形を借りて自己の心情を表現する喜びを味わい、豊かな心を育てる一助になると考える。

2. 研究の内容

①意欲的に造形活動に取り組める題材の工夫

- ・子どもが興味・関心のもてる題材
- ・表現の基礎的・基本的な事柄をふまえた題材
- ・表現に多様性や発展性がある題材

②自分の思いを表現するための指導法の研究

- ・材料・用具の扱いにおける基礎的・基本的なことから指導
- ・材料・用具の準備や整備
- ・表現の過程を明らかにする手だて（アイデアスケッチなど）の工夫

③作品のよさや美しさを感じ取り、認め合うための鑑賞の工夫

- ・子どもの思いや表現のよさを認める支援の工夫
- ・友だちの発想や表現のよさを感じ取り、認め合う工夫

3. 研究の方法

①全学年で「絵画表現」を中心にした図画工作科の研究授業を行い、ワークショップ型の研究討議会を持つ。

②学年部会と研修部で指導案討議会を持つ。

③公開授業に指導助言者を招聘し、研究を深める。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

○題材の工夫について

・子どもたちが楽しく作品を描いていくためには、自分の思いどおりに線や色づくりができるようになることが大事だと考え、「線の基礎・基本」「用具の使い方」の指導を作品づくりと並行して行った。その結果、確かな線を描けたり、用具の使い方が定着したりして、作品づくりに生かされた。

・低学年では、パスを使いこなせるよう指導を続け、いろいろな技法を作品に生かして使うようになった。

・絵の具の使い方では、それぞれの題材の中でいろいろな技法を使って表現させることで、子どもたちの表現したいものを描く手だてが広がり、表現力が豊かになってきた。その結果、作品の仕上がりも魅

力的なものとなった。

- ・子どもが意欲的に取り組める題材を選んできたことで、子どもたちは、想像をふくらませたり、イメージを広げたりしながら、楽しんで表現することができるようになった。

○指導法の研究について

- ・児童が、描きたい・つくりたいという気持ちが高まる学習活動の場を設定することや活動の過程で積極的に関わって児童の思いに寄り添い、常に励ましと賞賛の言葉をかけ続けたことにより、児童の集中力や緊張感、創作意欲を持続させることができた。

- ・イメージタイムを設けたり、アイデアカードを用いたりしたことで、児童が描こう・つくろうとする作品のイメージが鮮明になり、創造性豊かな作品づくりに結びついた。

○鑑賞の工夫について

- ・お互いの作品を鑑賞する中で、自分の作品が認められたり、友だちの作品の工夫したところを見つけたりすることができ、自尊感情が高められ、お互いを認め合うことができるようになってきた。

- ・互いに自分の作品を見せ合い、良いところを見つけ合ったので、作品を見る目が育ち、より良い表現をしようとする意欲が見られるようになってきた。

(2) 今後の課題

- ・基礎的・基本的な事柄について、学年の発達段階に応じて系統的に指導し、実践を積み重ねていく。

- ・表現力をより高めるために「線の基礎・基本」「用具の使い方」「パスの技法」「絵の具の技法」など継続した取り組みを進める。